

豊明市行政評価制度「施策」評価票

施策評価票番号

39

1 施策の概要

1-1 施策の名称	図書館			基本施策コード	4 1 4
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	図書館	評価票作成者 図書館長 野村芳明
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			
	項	生涯学習の推進			
1-4 施策の目的	蔵書の充実やネットワーク化を促進することにより、市民に「愛され、親しまれる図書館」をめざす。				

	平成22年度評価 (前期の成果)	平成27年度評価 (全期間の成果)
担当課評価	A	
総合評価	A	

施策評価の判定基準

- A : 施策の目的を効果的に達成しているため継続する
- B : 施策推進の実施手法等に改善の必要がある

1-5 総合計画における基本成果指標	基本成果指標名	前期(平成18年度～平成22年度)			全期間(平成23年度～平成27年度)			指標の定義
		目標値(単位)	実績値(単位)	達成率(%)	目標値(単位)	実績値(単位)	達成率(%)	
	図書館の設備や蔵書数に対する満足度	75.0(%)	70.4(%)	94.3(%)	80.0(%)			図書館設備の充実や蔵書数の満足状態を表す指標

2 施策の担当課による評価結果

評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	既存事業の構成や優先順位の考え方、新規事業の必要性の考え方	施策の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	コストの削減が求められ、その限られた予算の中で市民ニーズにいかに対応していくかが課題となってきている。	蔵書、資料の拡充は図書館事業の根幹を成しており、その枝葉としての市民サービス向上が課題である。	構成事務事業の4つについては、すべて予定どおり実行することができたが、予算削減の中、今後については、不透明である。
平成19年度	"	"	構成事務事業の4つについては、ほぼ予定どおり実行することができたが、予算削減の中、今後については、実行困難な状況が予想される。
平成20年度	"	蔵書、資料の拡充は図書館事業の根幹を成しており、その優先順位は変えることができないが、予算削減のあり、ボランティアの拡大事業については、今後益々重要性が増していくと考えられる。	構成事務事業の4つについては、ほぼ予定どおり実行することができた。予算削減の中、年間総貸出冊数及び年間入館者数は過去最高を記録し、貸出コストは逆に過去最低を記録した。このことは、費用対効果の面からいくと、非常に素晴らしいことであると考えている。
平成21年度	"	"	構成事務事業の4つについては、ほぼ予定どおり実行することができた。年間入館者数はインフルエンザ等の影響で前年度より減となったが、予算削減の中、年間総貸出冊数は過去最高を記録し、貸出コストは逆に過去最低を記録した。このことは、費用対効果の面からいくと、非常に素晴らしいことであると考えている。
平成22年度	構成事務事業の4事業については、ほぼ予定どおり進捗していると実感している。予算が減額される中、一定の成果をあげることができたことは評価に値すると考える、今後も様々な工夫によって、目標以上の成果を目指したい。		
平成23年度	構成事務事業の4事業は、着実に実績を積み重ねてきている。しかしながら、緊縮予算の中での限界を感じていることも事実である。今後とも、創意工夫を凝らし、目標達成に努力したい。		
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

